

小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	8	施策名	安全・安心な暮らしの確保	
小施策コード	8-1	小施策名	危険箇所の解消	
小施策 主管課等コード	089000	小施策 主管課等名	河川課	
評価責任者名	菊池 巧		内線番号	8100
評価シート作成者名	杉田 誠司		内線番号	8101

Step 1 小施策の全体像

小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

現状と課題	盛岡南地区都市開発に伴い、増加する雨水への対応のため、平成5年度から南川の改良事業を進めているところですが、25年度末の事業の進捗率は29.5%であり、流域の浸水被害を防ぐためにも事業を進める必要がある。
取組の方向性	地震や水害などの自然災害に備えて、被害が最小限になるように、危険箇所の解消を進める。
対象 (誰(何)を対象として行うのか)	市域
意図 (対象をどのようにしたいのか)	危険箇所が少なくなる。

Step 2 成果指標の推移

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていることを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 準用河川 河川整備率 (↑)	%	74.6	74.8	75.3	75.8
B ()					
C ()					

Step 3 市民ニーズの把握

平成25年8月9日の大雨の際には、水路・河川に関する改修等、市民からの苦情・要望が多数寄せられていることから浸水被害を防ぐためにも着実に事業を進める必要がある。

Step 4 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の役割の状況	市	地震や水害などの自然災害に備えて河川改修の促進を図るとともに、被害が最小限になるように危険箇所の周知を進める。	50
	国・県・他自治体	土砂災害対策については、岩手県が主体となって事業を行っていることから、事業が促進されるよう協力しながら進める必要がある。	50
	市民・NPO		
	企業・その他		

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
 - 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
 - 市の役割の比重を縮小していくことを検討する
- （理由）

南川及び準用河川においては、補助を受け、市が事業の実施主体となっている。

また、土砂災害対策事業については、県が事業主体となり、市は事業費の一部負担を行うこととなっていることから、現状維持とする。

Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

準用河川の整備が進んだ。

(2) 成果をあげた要因

事業の着実な執行が行われた。

(3) さらなる成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

整備率の向上に向けての更なる事業費の確保が課題となっている。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

河川の改修が少ししか進まないことから、地域としての治水安全度が向上しない。

また、事業費の確保が課題となっており、河川改修と関連する隣接する事業との調整ができない。（渋民道の駅構想、石川啄木記念館、大橋川（未改修））

(2) 現状の問題点が生じている原因

予算の確保ができない。

(3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

市の補助事業であることから、国、県、市への予算拡大の働きかけ。

3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）

国、県を交えた事業調整を行い、関連する事業にあわせた集中的な事業実施ができる予算確保。

Step 6 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）